

論 文 内 容 要 旨

The survey of oral health conditions for school children and the practice of oral health education programs for schoolteachers in a Cambodian primary school

(カンボジア公立小学校における児童の口腔内状況の調査と小学校教員への歯科保健教育プログラムの実践)

主指導教員：谷本 幸太郎教授

(医系科学研究科 歯科矯正学)

副指導教員：高橋 一郎教授

(医系科学研究科 粘膜免疫学)

副指導教員：光畑 智恵子准教授

(医系科学研究科 小児歯科学)

浅尾 友里愛

(医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻)

1 背景

カンボジア王国（以下カンボジア）では、過去の内戦の影響から現在でも歯科医療サービスは供給不足である。歯科保健教育がほとんど実施されておらず、人々の口腔衛生に対する意識も低いことから、特に小児において高い齲蝕罹患率を示している。本研究は、カンボジアのある公立小学校においての教員への歯科保健教育プログラムの実践と、児童の経年的な口腔内状況の調査・分析を目的とした。

2 方法

カンボジアのシェムリアップ市中心部に位置する公立小学校を対象校とし、2011年～2015年に訪問した。うち、2011年～2014年に小学校教員への歯科保健教育に関する研修会を実施し、2013年時には参加した教員に対し質問紙調査を実施した。2011年～2015年に児童のべ2,637名の口腔内診査を実施した。齲蝕の状態として齲蝕有病者率・DFT・DF歯率について、口腔衛生状態として歯垢の付着状態・歯肉の状態・歯石沈着の有無について集計・分析した。

3 結果

3.1 教員研修会

2011年～2013年は全教員約90名が、2014年は低学年担当の教員約45名が参加した。2013年時の研修内容の理解度調査では平均点が4点満点中2.26から3.42に上昇し、研修後の意識調査では児童への歯科保健教育の実践について95.5%の教員から前向きな回答が得られた。

3.2 口腔内診査

口腔内診査では、齲蝕有病者率は各調査年とも90%を超え、非常に高い割合を示した。DFT・DF歯率は2011年から2015年にかけて、有意に低い値を示した。口腔衛生状態に関しては、歯垢の付着状態・歯肉の状態・歯石沈着の有無ともに、2013年から2015年にかけて有意に低い値を示した。

4 考察

カンボジアのある公立小学校において、小学校教員への歯科保健教育に関する研修会を4年間実施し、児童の口腔内診査を5年間実施した。我々の働きかけによりカンボジア児童の口腔内は改善傾向を認めたが、歯科保健教育との疫学的な因果関係は見出せていない。今後も教員や児童への介入やその結果についての分析を継続し、国民全体のオーラルヘルスプロモーションの推進を目指している。